

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 共通運送株式会社 北海道センター	階数	地上2階建
建設地	札幌市東区五稜町547-6,547-10,549-2,549-6,549-12,549-14,549-15,549-16,549-17,549-25,549-26	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	0 人
建物用途	事務所・工場	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2019年9月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	16,992 m ²	評価の実施日	2018年6月22日
建築面積	5,511 m ²	作成者	
延床面積	9,378 m ²	確認日	2018年6月22日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>① 参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>② 建築物の取組み</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>③ 上記+②以外の</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>④ 上記+</td> <td>82%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	① 参照値	100%	② 建築物の取組み	82%	③ 上記+②以外の	82%	④ 上記+	82%	
① 参照値	100%									
② 建築物の取組み	82%									
③ 上記+②以外の	82%									
④ 上記+	82%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.6</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.4</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.2</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.6</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3</p>

3 設計上の配慮事項			
<p>総合</p> <p>外壁の色彩を落ち着いた雰囲気にし、周囲の環境に配慮した。</p>		<p>A 省エネルギー</p> <p>省エネ法に基づく基準をクリアしている。LED照明の採用。居室は2重窓とし空調負荷の低減に努めた。</p>	
<p>B 省資源等</p> <p>節水型の水栓、便器の使用。</p>		<p>C 緑化</p> <p>札幌市緑の保全と創出に関する条例に基づく計画とした。</p>	
		<p>D 雪処理</p> <p>十分な除雪スペースを確保し、敷地外に雪を出さない計画とした。</p>	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
 (仮称)共通運送株式会社 北海道センター

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
2.6 0.15 2.6								
1.1 室内騒音レベル								
3.0 0.40								
1.2 遮音								
3.0 0.40								
1 開口部遮音性能								
3.0 0.60								
2 界壁遮音性能								
3.0 0.40								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
- -								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
- -								
1.3 吸音								
1.0 0.20								
2 温熱環境								
2.0 0.35 2.0								
2.1 室温制御								
3.0 0.50								
1 室温								
3.0 0.38								
2 外皮性能								
3.0 0.25								
3 ゾーン別制御性								
3.0 0.38								
2.2 湿度制御								
1.0 0.20								
2.3 空調方式								
1.0 0.30								
3 光・視環境								
2.3 0.25 2.3								
3.1 昼光利用								
3.6 0.30								
1 昼光率								
開口部を大きくし、昼光を確保している								
4.0 0.60								
2 方位別開口								
- -								
3 昼光利用設備								
3.0 0.40								
3.2 グレア対策								
3.0 0.30								
1 昼光制御								
3.0 1.00								
2 映り込み対策								
- -								
3.3 照度								
1.0 0.15								
3.4 照明制御								
1.0 0.25								
4 空気質環境								
3.2 0.25 3.2								
4.1 発生源対策								
4.0 0.50								
1 化学汚染物質								
ホルムアルデヒド発散建築材料については「F☆☆☆☆」を使用、アスベスト含有建材、クロルビリス添加建材を使用しない								
4.0 1.00								
4.2 換気								
2.0 0.30								
1 換気量								
1.0 0.33								
2 自然換気性能								
自然換気有効開口面積は床面積の1/30以上								
4.0 0.33								
3 取り入れ外気への配慮								
1.0 0.33								
4.3 運用管理								
3.0 0.20								
1 CO ₂ の監視								
3.0 0.50								
2 喫煙の制御								
3.0 0.50								

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.2
1 機能性			2.7	0.40		-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ			1.6	0.40		-	
1 広さ・収納性			1.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画			1.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性			4.0	0.30		-	
1 広さ感・景観 (天井高)		天井高2.7m以上、開放感を持たせている	4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		十分な広さの休憩スペースに隣接して、自動販売機コーナーを設けている	5.0	0.33		-	
3 内装計画			3.0	0.33		-	
1.3 維持管理			3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		省資源	3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		省資源	3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		省資源	3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		省資源 給水、汚水排水、雑排水でBを使用	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.2	0.20		-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備			2.0	0.20		-	
3 電気設備			1.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備			2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性				4.3	0.30		-	4.3
3.1 空間のゆとり				4.4	0.30		-	
1	階高のゆとり		管理棟の階高3.7m以上、倉庫部分の階高、7.95m以上	4.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		不要な間仕切りはなく、倉庫として空間の自由度は高いと考える	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			荷重のゆとりは十分と考える	5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性				3.8	0.40		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		構造躯体には配管を埋めていない	4.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		事務室部分はOAフロアの為、通信配線の更新は容易であるとする	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		スペースは十分と考える	4.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		スペースは十分と考える	4.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39		-	2.2
1 生物環境の保全と創出		緑化		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40		-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPI _m =0.63	5.0	0.02		-	5.0
2 自然エネルギー利用		省エネ		3.0	0.12		-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.70	4.0	0.61		-	4.0
4 効率的運用				3.0	0.25		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-		-	
4.1	モニタリング	省エネ			-		-	
4.2	運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	3.0
1 水資源保護				3.4	0.20		-	3.4
1.1	節水		節水型便器を使用	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.60		-	2.9
2.1	材料使用量の削減	省資源		3.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	鉄骨造の為躯体と仕上の分別は容易、再利用できるユニット部材はOAフロアを使用	5.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20		-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		対象物質を含有しない建材種別を4つ以上使用	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70		-	
1 消火剤	省資源		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50		-	
3 冷媒	省資源		2.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率 82%	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 雪処理		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	省資源	札幌市雨水流出抑制の対策量以上の流出抑制	4.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		駐輪場の確保、駐車スペースの確保、荷捌き用車両の駐車スペースの確保	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	適切なごみ置き場面積の確保、分別計画、堆雪スペースの確保	5.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

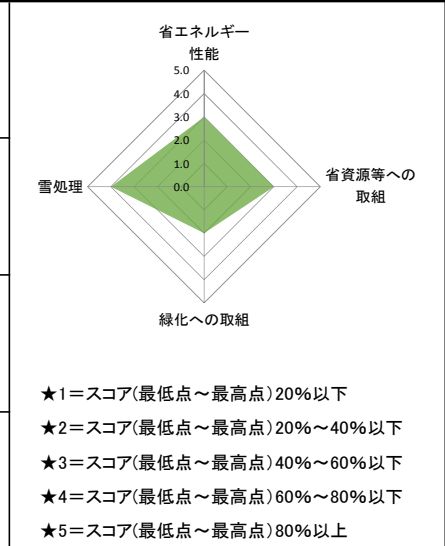
1 建物概要

建物名称	(仮称)共通運送株式会社 北海道センター	BEE	1.0	BEEランク	B ⁺
建物用途	事務所,工場,				
延床面積	9,377.7 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★
	省資源等	★★★☆☆
	緑化	★★★☆☆
	雪処理	★★★★☆



3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 22.4 最低点 6.7)		合計 15.9点 /22.4点	
Q1 温熱環境	スコア 0.4 /0.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 0.3 /0.3
Q1 光・視環境	スコア 1.0 /1.6	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.5 /2.5
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 9.8 /12.3
		LR1 効率的運用	スコア 2.9 /4.9
B 省資源等 (最高点 24.3 最低点 7.8)		合計 15.3点 /24.3点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.7 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.2 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.8 /2.9	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.1 /1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.7 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.8 /4.4
C 緑化 (最高点 19.1 最低点 3.8)		合計 9.2点 /19.1点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.2 /5.9	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.7 /7.8		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.8 /2.9		
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計 2.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数